10 月 17 日

殉教者主教イグナシウス

Ιγνάτιος

(35 頃～100 頃)

～使徒教父、聖ヨハネの弟子～

＜人名事典などでの別表記：イグナティオス＞

イグナシウスはシリアのアンティオキア教会の主教で、使徒教父の一人です。また言い伝えによると、イエスの弟子であったヨハネの弟子であるとも言われますが、パウロやペトロの弟子だったという説もあります。

イグナシウスは「テオフォロス」(神を持っている）と呼ばれ、まだ迫害のただ中にあり、教理などが確立していない初代教会にあって、主教制度の確立を求めていきました。つまり、主教が承認する教えのみを異端に対する正当なものとし、礼拝様式も主教の許可したもののみを認めていくのです。こうして彼は、主教の権威を強調するのでした。

しかし、ローマ皇帝トラヤヌスの治世下で、イグナシウスは逮捕され、死刑を宣告されます。その時に、彼が司牧していたシリアからローマまで船で護送されることになりました。けれども彼は、自分の理想であるキリストと、殉教によって一致することが最高の望みであり、喜びであると感じます。ローマに運ぶために、彼を乗せた船はトルコの海岸沿いを進みます。そしてその先々で、多くの信徒が彼に会いにやってきました。彼は途中で立ち寄った町で、信徒

「ST. IGNATIUS OF ANTIOCH」

たちに対する励ましの手紙を書き送りました。

手紙は、エフェソ、マグネシア、トラレス、フィラデルフィア、スミルナの教会に対して、また個人的に親しくしていたスミルナの主教ポリュカルポスに向けて書かれました。さらにローマの教会の信徒たちに向けても送られます。これらの手紙は「使徒教父文書」の中に収められ、今でも見ることができます。

そしてローマに着いたイグナシウスは、人々の見ている競技場で、猛獣に噛み殺されたそうです。

イグナシウスは、「公同の教会」いう言葉を最初に用いた人物です。また、何よりも主教の権威を大切にし、「町の教会は主教を中心にしなければならない。主教なしには何もしないように」と言っていたと伝えられます。

＜特祷＞

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者主教イグナシウスに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。　　アーメン